

もっと、知りたい。TOKIWAのコト。

学校法人常磐大学 広報誌
TOKIWA POST [トポス]

TOPOS

September.2025

vol.



特集

TOPOS 100号／新学長就任メッセージ
常磐大学こども園

- ▶ **News & Topics** …… 大学・短期大学、高校、智学館、こども園のニュースを紹介
- ▶ **Toki no Sho**／トキノショ …… 大学・短期大学の教員が執筆した著書を紹介
- ▶ **Toki no Wa**／トキノワ …… Club Activities 大学「吹奏楽団」、高校「女子ソフトボール部」を紹介

もっと、知りたい。TOKIWAのコト。 学校法人常磐大学 広報誌 TOKIWA POST [トポス]

TOPOS 100号

2024 vol.97

vol.96よりデザインを一新。vol.97では常磐大学創立40周年を特集。



TOPOS

vol.100

「TOPOS」創刊から29年
今号でvol.100に!

2025

TOPOS

2022 vol.94

常磐大学高等学校
創立100周年を特集。

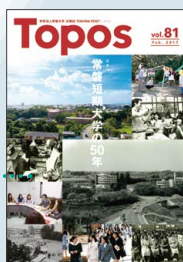


2021 vol.92

デザインを一新。

2017
vol.81

常磐短期大学
開学50周年を特集。



2013



2014 vol.72

常磐大学高等学校の
新校舎完成と生徒の
生活を特集。

Topos

Topos.

2008
vol.47~49

vol.47では常磐大学の健康栄養学科の認可を、
vol.48では地域連携センターの誕生を紹介。
vol.49からは100周年記念ロゴを入れたデザインに。
また智学館中等教育学校の開校を特集。



2006 vol.40

開学100周年を記念した、
ロゴおよびシンボル・マ
ークの新ビジュアルを紹介。
前号 (vol.39) から、
学報デザインも
一新。



1996



Topos.

2010 vol.56

夏号から
デザインを一新。



「Topos」に
リニューアル

学報「TOPOS」と法人
広報誌「tokiwa」を統
合。vol.68より、法人広
報誌「Topos」としてリ
ニューアル発行。

常磐大学を開学 1983

常磐学園
短期大学を開学 1966

常磐高等
女学校を開設 1935

1922 水戸常磐女学校
を開校

1909 裁縫教授所として開設

TOPOS

2002 vol.26

常磐短期大学の
キャリア教養学科
誕生を伝える。



2003
vol.30~31

vol.30では常磐大学の学
科再編を特集。「人間科学
部」「国際学部」の進化を
伝える。
vol.31では常磐大学大学
院でのコミュニティ振興学
研究科のスタートを特集。

「TOPOS」
創刊

常磐大学ほか各学校の
多様なニュースをお届け
する学報として発行。





常磐大学・常磐短期大学

新学長

就任 Message

Profile 下村 裕

専門：物理学

1984年に東京大学理学部物理学科を卒業後、1989年に東京大学大学院理学系研究科物理学専門博士課程を修了。理学博士。

東京大学理学部助手を経て、1991年に慶應義塾大学法学部専任講師となり、2000年に同教授。在任中は慶應義塾志木高等学校校長等を兼任した。2025年4月より現職。

「トキワの実学」で 生きる力を身につけよう



「実学的な学び」を発展させて 自分で課題解決ができる人間を育成

常磐大学が建学の精神に掲げる「実学」とは、私たちの暮らし、地域や社会に貢献できる実践的な学問です。そのため、すぐに役立つ学問だと考えがちです。しかし、世界が複雑化して急速に変化している現代は、様々な社会問題が新たに生じ、大学で学んだことが直接通用しないこともあります。さらには、自然災害、感染症、紛争など、日常を変えてしまう事態が生じることがあるでしょう。そのような場合は、未知の状況を予測し、自ら考え行動することで課題を解決できる能力を養うことが重要です。「トキワの実学」を通して、「社会で生きるための力」を培ってほしいと思います。

グローバルな環境で視野を広げて 地域や社会、全世界にも貢献する

本学では13の国・地域、20の大学と連携して、国際交流を進めています。留学生から刺激を受け、自分の中に新たな価値観を刻むだけでなく、留学や海外研修を通して世界を肌で感じ、国際的な視野を持ちながら地域や社会、さらには全世界に貢献できる人になってほしいと考えています。地域連携としては、茨城県を代表する経営者や自治体職員による講座をはじめ、地元企業と商品開発に取り組んだり、自治体に政策提言したりするなど、リアルな学びが展開されています。地域とともに学生が成長できる本学で、かけがえのない学生時代を有意義で楽しいものとしてください。

BOOK 著書

一部紹介

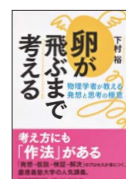


ケンブリッジの卵

回る卵はなぜ立ち上がりジャンプするのか

コロンブスは知っていたのだろうか。ゆで卵をテーブルに置いて速く回すと、卵はやがて立ち上がる。そして、さらに高速で回すと、卵はテーブルからひとりでにジャンプするということを…。

慶應義塾大学出版会／2007年／272ページ



卵が飛ぶまで考える

物理学者が教える
発想と思考の極意

「雨のときは走ったほうが濡れない?」「アメボはなぜ進むのか?」「ゆで卵の回転」など、身近な例から問題発見と科学的思考の方法を楽しく伝える。

日本経済新聞出版社／2013年／224ページ

常磐大学幼稚園は、2025年4月より

幼保連携型
認定こども園

「常磐大学こども園」

として新たなスタートを切りました



幼保連携型認定こども園の特色

幼保連携型認定こども園は、保育所の「養護」と幼稚園の「教育」という2つのメリットが一体化したハイブリッド型の施設といえます。その特色として、一つには年齢の離れた子どもたちと交流できることが挙げられます。本園では、0歳から2歳の子どもたちも入園しており、年齢の離れた子どもたちどうしが接する機会が多くあります。年長や年中の子どもたちはもちろん、年少の子どもたちも小さな子たちに接することで、優しさや慈しむ心が育まれています。

また、保幼小の接続については、一般的には保育所から小学校または幼稚園から小学校という接続でしたが、本園では、保育部から幼稚部へ、そして小学校就学へと、接続の一体化が図られることも大きな特色です。これまでの「常磐大学幼稚園」としての実績を活かし、引き続き子どもたちにとって豊かな保育・教育活動を実施してまいります。

常磐大学こども園は、建学の精神と教育理念にのっとり、次の目的を果たしていきます。

1

〔子育て環境の充実に向けて〕

少子化が進む中で、幼保連携型認定こども園として社会のニーズに応えるべく、研究実践を進め、地域全体での子育て環境の充実に取り組みます。

2

〔子育て支援の向上に向けて〕

地域の幼児教育のセンター的な役割として、常磐大学ならびに常磐短期大学と一体となって、多彩な人材を活用した連携事業を行い、質の高い子育て支援を提供します。

3

〔優れた保育者・教育者の養成に向けて〕

常磐大学ならびに常磐短期大学の学生が、実習等において実践的な経験を積み場として活用され、未来の優れた保育者や教育者の養成に寄与します。



1



4



2



3



5

施設案内

1 施設全景

2 園庭の遊具

3 保育室

4 遊戯室

5 送迎バス

新園長就任 Message



常磐大学こども園 園長
大芝 静香

子どもたちの健やかな成長を願って

現代社会では少子化や人口減少などの課題が顕著になり、子どもたちが担う役割がますます重要になっていくとされています。第4期教育振興基本計画では、幼児期の教育が生涯にわたる人格形成の基盤となることから、「幼児教育の質の向上」を掲げています。幼児期の遊びの中で育まれる「非認知的能力」は、小学校以降の豊かな学びに大きな影響を与えると考えられています。

本園は1970年に「常磐学園短期大学附属幼稚園」として開園し、2005年から「常磐大学幼稚園」として地域からの信頼を得てきました。そして2025年度より、0歳から2歳児の保育機能を加えた幼保連携型認定こども園として新たなスタートを切りました。「健康で、明るい子」「よく考え、工夫する子」「みんなと仲よく遊べる子」「自分から進んで活動にうちこめる子」を教育目標に掲げ、音楽・造形・英語・科学・スポーツ活動や地域社会との連携を通じて、創造力豊かな子どもたちの育成を目指しています。

常磐大学や常磐短期大学、地域機関との連携を強化するとともに、豊かな環境を活用して、子どもたちが主体的に行動し、新しい価値を創り出す力を育む、豊かな保育・教育活動の実施に向けて取り組みを充実させてまいります。



大学

ポーランド・グダニスク大学と合同でシンポジウムを開催

5月22日(木)、本学の連携協定校であるポーランドのグダニスク大学と合同でシンポジウム「ポーランドと日本を結ぶ架け橋」を開催しました。両大学の学生や教職員を含む約100人が参加し、学術交流や国際的な連携を強化する貴重な機会となりました。前半セッションでは、グダニスク大学言語学部日本学科長ヤツェク・スプリスガルト博士と、同学科講師リンダ・チェルニホフスカ・クラマシュ先生による流暢な日本語でのスピーチや、同大学日本学科講師スプリスガルト・友美先生による講演「ポーランドにおける日本学の発展 ～現在の状況と今後の展望～」が行われました。講演では、ポーランドには日本学科を擁する大学が5つあり、大学によって扱う分野が異なることや、グダニスク大学日本語学科では2023年度の入学試験で、合格者26人のところ500人以上の志願者がいたことが報告されました。今後は日本語学科の教員を補充し、学生数

を増やしていく予定とのこと。さらに、日本学科の4人の学生によるカシューブ地方（ポーランド北部のグダニスクを含む地域）についてのプレゼンテーションや、常磐大学人間科学部コミュニケーション学科飯野令子教授によるグダニスク大学訪問報告が行われました。シンポジウムの後半では、グダニスク大学と常磐大学の交換留学に参加した4人の学生によるトークセッションと、参加者全員による「ポーランドと日本の交流を促進するには」というテーマのグループセッションが行われました。議論を通じて、参加者たちにとって貴重な異文化交流の機会となり、また、お互いに様々な刺激を受けるセッションとなりました。今後、両大学の関係がより深まることを願っています。



大学

産学官連携「常磐大学×マルト」商品開発プロジェクト 開発商品を発表

2月28日(金)、株式会社マルトと人間科学部健康栄養学科の学生サークル「食品栄養研究会」が共同開発した商品の発表会を行いました。常磐大学と株式会社マルトは、管理栄養士を目指す学生とともに、茨城県の野菜摂取量の拡大を目的に、2023年7月より茨城県産野菜を使用した商品の開発を進めてきました。健康栄養学科の飯村裕子准教授が、学生サークル「食品栄養研究会」を通して関心のある学生を募り、5つのグループがそれぞれ商品の開発に取り組みました。加えて、商品パッケージや販促物デザインを学生サークル「デザインCORE.」の3人が担当し、より学生主体で開発した商品が完成しました。

開発商品：(1)IBARAKIの具時短×健康×1品今日はこれでいがつべよ!
(2)パンプキンシュ&レンコンきなこシュ黒蜜添え
(3)あにまるベジドーナツ
(4)野菜たっぷりメンチカツ
(5)れんこんちぢみ〜野菜たっぷり〜

※2025年7月現在、(1)のみ、いわき市の一部店舗を除き、販売状況に応じて各店舗で431円(税込)にて販売中。初回製造分ほぼ完売のため、8月以降は一時休売。



大学

登録日本語教員養成課程が、文部科学省から登録実践研修機関および登録日本語教員養成機関として認定

5月30日(金)、本学の人間科学部コミュニケーション学科、教育学科、現代社会学科の学生を対象とした登録日本語教員養成課程が、文部科学省が指定する「登録実践研修機関及び登録日本語教員養成機関」として、令和6年度第2回の審査を通過し、登録されました。本学が位置する茨城県は在留外国人が年々増加しています。在留外国人が地域社会で生きていくうえで、大きな壁となるのが日本語です。本学の日本語教員養成課程は、留学生のみならず、就労者や生活者、子どもなど、多様な人々を対象として、地域の在留外国人が生活、就労や学習に必要な日本語が習得できるようにする日本語教育人材を育成しま

す。地域の課題を豊かな国際感覚で捉え、問題解決に真摯に取り組む、多文化共生社会を形成する最前線に立つ人材としての活躍が期待されます。2026年度以降に入学し、本学の登録日本語教員養成課程（実践研修、養成課程）を修了した学生は、基礎試験が免除され、応用試験に合格することのみで、(国家資格)登録日本語教員の資格を取得することができます。

学び、体験し、日々成長している学生・生徒・園児たち。
そんな彼らの活躍の場は、校内にとどまらずさらなる広がりを見せています。
ここでは各学校の主な活動や取り組み、実績などををご紹介します。

短大

「茨城県立図書館 第23回読み聞かせコンクール」で茨城県教育委員会教育長賞を受賞

2月8日(土)、茨城県立図書館において、第23回読み聞かせコンクールが開催され、幼児教育保育学科2年生の5人が参加しました。団体の部に「いろえんぴつ」「おはなしピヨピヨ」の2チーム、個人の部に1人が参加し、それぞれに日頃の学修成果を発揮しました。小学生からベテランまで大勢の方々が参加したコンクールでしたが、その中でチーム「いろえんぴつ」が演じたパネルシアター「おしゃれひつじ」(著者:藤田佳子)が、見事「茨城県教育委員会教育長賞」を受賞しました。審査員の先生方からは、



息の合った掛け合い、スムーズなパネルシアターの操作と語り、自然体で楽しさが伝わる雰囲気や表情が評価されました。他の参加者の発表も大変刺激になり、次に繋がる学びの多い一日になりました。



高校

第2学年修学旅行

12月に修学旅行で沖縄に行きました。これまで授業や事前研究で学んだ沖縄の歴史や日頃の生活では感じることでできない沖縄の文化を体験した4日間でした。実際に現地を訪れ、目で見ると耳で聞く・肌で感じる学びは新鮮で個々にとって貴重な体験として記憶に残りました。短期間に凝縮された内容は充実しており、あっという間の出来事でした。かけがえのない友人たちと過ごした最高の瞬間は高校生活の大きな思い出になりました。



高校

第1学年校外学習

3月7日(金)、1年生の恒例行事である校外学習で「ハリー・ポッターと呪いの子」の観劇に行きました。これまでに本格的な観劇の経験がない生徒も多く、皆この行事を楽しみにしていました。上演後すぐにハリー・ポッターの世界観と魔法を実際に表現する技法に圧倒され、驚くことばかりでした。テレビ等で見たことのある俳優が演じる本物の演劇に感動を味わい、演出の素晴らしさも相まって充実した行事となりました。年度の最後にクラスごとのバスで校外に出かけたことで、1年生最後の思い出にしっかりと残った校外学習でした。



高校

関東高等学校駅伝競走大会

昨年度20年ぶりに出場を果たした関東高校駅伝女子の部に、2年連続で出場することができました。今回は怪我でサポートに回った3年生が最後まで練習に懸命に取り組み、本番では後輩を支える姿が、後輩のやる気を引き出して良い雰囲気に繋がったと感じています。今回得た喜びや前向きな気持ちを忘れず、今年も出場し好成績を残せるよう、練習に励みたいと思います。



高校

卒業式・入学式

3月1日(土)に常磐大学体育館で卒業式を行いました。3年間の思い出を胸に次のステップに進む卒業生の背中には本当に大きく見えました。また、4月8日(火)に水戸市民会館グロービスホールで入学式を行い、これから始まる高校生活に胸を躍らせる新入生を迎え入れました。卒業生・入学生の門出を祝うとともに、大切な2つの式典を終え、また新たな年度が始まりました。



智学館

PBL Day

3月8日(土)、探究学習の成果発表会PBL Dayを行いました。3年次生は、近隣の老人ホームや偕楽園公園などにおける梅染め活動、合唱コンクールへの参加、演劇など多彩な取り組みを発表。4・5年次生は、各自が参加した外部コンテストについて、そしてその取り組みを通して成長したコンピテンシーを堂々と報告しました。「次はもっと試行錯誤を重ねたい」「校外での梅染め活動を続けたい」などの振り返りが聞かれ、自己理解の深まりや地域社会との繋がりを再認識する一日となりました。



智学館

初の留学生受入

1月からイタリア・ボローニャ出身の女子留学生を、4月からオーストラリア・クイーンズランド出身の男子留学生を迎えました。2人とも最初は緊張していた様子も見られましたが、クラスメートの温かいサポートもあり、すぐに打ち解けました。休み時間には友達と楽しそうに会話をし、部活動にも積極的に参加するなど、日本の高校生活を満喫しています。日々のふれあいを通じて、生徒たちの視野も広がっているようです。



智学館

生徒交流会・部活動紹介

年度初めの4月8日(火)、16日(水)に生徒会役員が中心となって、それぞれ生徒交流会、部活動発表会を実施しました。生徒交流会では、全校生が年次を超えたチームを編成し校内に隠された「お宝」を探し当てる「宝探しゲーム」を行いました。どのチームも制限時間いっぱい校内を探して回ったのちパフォーマンスを披露するなど、とても楽しく活動することができました。また、部活動発表会では、すべての部が昨年度の活動報告を中心に趣向を凝らした発表をし、生徒たちは大いに盛り上がりました。



こども園

2025年度 常磐大学こども園 入園式

4月1日(火)から常磐大学こども園になり、4月10日(木)に幼稚部および保育部において、入園式が行われました。3歳、4歳児に加え、0、1、2歳児のお子さんや保護者も参列され、賑やかで、和やかな雰囲気の中で執り行われました。幼保連携型認定こども園としての新たなスタートに、教職員も身が引き締まる思いでした。伝統ある常磐大学幼稚園の教育方針を受け継ぎ、さらに発展させ、子どもたち一人ひとりの成長を見守りながら、楽しく園生活を送ることができるようにしたいと思います。



こども園

田植え

5月8日(木)に年長組が田植えを行いました。泥に足をとられながらも、一つ一つ手で苗を植えていきました。初めは泥に抵抗がある子もいましたが、お友達と一緒に植え終わると「楽しかった～!」「早くお米食べたいな!」と嬉しそうな笑顔が見られました。これから苗が育っていく過程を子どもたちと観察しながら、生長を楽しみにしたいと思います。



こども園

春の遠足

大型バスに乗って春の遠足に出かけました。年少組は親子で“アクアワールド茨城県大洗水族館”へ。年中組は親子で“日立シビックセンター”へ。年長組は友達や教員と一緒に“日立市かみね動物園”へ。当日は、年少組と年中組は、親子で色々な魚を見たり科学の不思議に触れて楽しんだりしました。また、年長組では、友達と一緒に動物を見たり、遊園地の乗り物に乗ったりして、仲間としての絆を深め、素敵な思い出の1ページが刻まれました。



海獣水族館の素顔

人間科学部 教授
中原 史生

村山 司、
中原 史生(編著)

2025年2月
東海教育研究所



水族館における海棲哺乳類研究の裏話を研究者と水族館職員が紹介した本です。第3章「フィールドと水族館を繋ぐイルカの行動研究」と「おわりに」を執筆しています。

情報資源組織演習

情報メディアへのアクセスの仕組みをつくる
第2版

人間科学部 准教授
田嶋 知宏

山本 順一(監)
竹之内 禎、
須永 和之、
西田 洋平、
田嶋 知宏(編著)

2025年3月
ミネルヴァ書房



図書館の目録や情報資源整理を実践的に学ぶための本です。第2版では、目録に盛り込む情報間にみられる関連の記述について、解説しています。

これからの図書館情報学

人工知能と共生する図書館

人間科学部 准教授
田嶋 知宏

山本 順一、
前川 和子、
松戸 宏予(編)

2025年5月
有斐閣



第2章「図書館の機能」を担当し、図書館の種類、公共図書館のあゆみ、社会における図書館の役割について解説しました。

食品開発論

人間科学部 准教授
秋山 隆

鈴木 靖志(編著)

2025年5月
建帛社



本書は、技術とビジネスの両視点を重視し、食品の特殊性を考慮した構成としています。食品開発を志す学生諸氏には、本書を通じて食品開発の魅力を感じながら、必要な知識を体系的に学んでいただきたい。

新公衆栄養学

2025年版

人間科学部 准教授
秋山 隆

古畑 公(監)
秋山 隆、
高橋 佳子
間中 友美(編著)

2025年3月
ナッパ



管理栄養士国家試験出題基準に対応。公衆栄養活動は、対人サービスや実験室での活動のように、結果を体感したり、直ぐにみることはできません。本書では、可能な限り実例を取り入れた教科書を目指しました。

新調理システム対応

給食経営管理論実習・演習

人間科学部 准教授
関口 祐介

大原 栄二、
近江 雅代(編著)

2025年4月
建帛社



新調理システムに対応した全く新しい実習用テキストとなっており、クックサーブ以外に、クックチルにも対応できます。オンラインで関連資料や動画の視聴も可能です。

給食経営管理テキスト

第6版

人間科学部 准教授
関口 祐介



加藤由美子、他(編)

2025年3月
学建書院

色合いやキャラクターなどレイアウトを工夫しており、管理栄養士に必要な給食施設における安全・衛生管理、調理工程や大量調理といった知識を幅広く学べます。

主体としての子どもが育つ 保育内容「表現」

人間科学部 准教授
鈴木 範之



無藤 隆(監)
吉永 早苗(編著)

2025年5月
北大路書房

領域「表現」の視点から、子どもの表現の姿やその発達、遊びや生活における素朴な表現について事例をまじえて取り上げています。専門的事項と指導法を一体的かつ実践的に学ぶことができる一冊です。

新しい学校を創る 教育経営

幼児教育保育学科 准教授
石崎 ちひろ



安藤 知子、他(編著)

2025年3月
晃洋書房

本書は、学校や教育経営に携わる方々と研究者と協働して作り上げました。混迷する時代の中で、「教育実践」とどのように向き合うのか、それぞれの視点で論じています。

改訂新版 教育の制度と学校の マネジメント

幼児教育保育学科 准教授
石崎 ちひろ



加藤 崇英、臼井 智美(編)

2025年4月
時事通信社

本書は、刻々と変化する社会だからこそおさえておきたい公教育概念、そして近年実施された政策のひとつであるGIGAスクール構想などが全13章でコンパクトにまとまっています。

常磐大学

吹奏楽団

音楽が好きという
気持ちで繋がる！
様々なバックグラウンドを
持つ多彩な仲間が集う場所。

常磐大学が指定している強化部のひとつ。楽団のメンバーは各学部学科の大学生と短大生で構成されている。実習などで忙しいとされる看護学部生や幼児教育保育学科の学生も在籍。在学期間やカリキュラムが異なる多様な面々で構成されていることから、活動時間を合わせる事が難しく、その調整がいつも課題だが、ここにはそれでも好きな音楽に携わりたいと思う学生が集い、コンクール出場に向けて和気あいあいと活動している。

目指すは吹奏楽コンクール東関東大会出場！

「才能より努力」の信念を胸に団長として奮闘中。

中学1年生の時から吹奏楽を始め、楽器はパーカッション一筋。当初、大学での部活動のイメージは、練習時だけの表面的な付き合いのみと思っていました。しかし実際に入団し活動を通して実感したことは、先輩も同級生も皆が優しく頼りになる人物ばかりで深い交流ができていたということでした。どのパートも学年や学科の壁をこえて仲が良く何でも話し合えるので、この雰囲気がこの楽団の自慢です。だからこそ、曲選びから構成などを含め、一からすべてを自分たちで作り上げていく定期演奏会など、学生が主体となった活動ができるのだと思います。目下、楽



団長
しばた めい
柴田 芽生 (2年)



団の目標はコンクールでの東関東大会出場です。私はこれからも周囲の力を借りつつ、団員みんなから信頼される団長になれるよう一層尽力していきたいと思っています。

自分自身を高め周囲と響き合える人へ成長を

本楽団は活動の運営すべてを学生主体で行っています。団の行事や練習計画の立案、コンクールや定期演奏会の選曲等、皆で意見を出し合い責任を持って決定しています。このため団員同士の距離感が近くコミュニケーションも活発、明るく賑やかな雰囲気の楽団です。吹奏楽は一人ひとりの音が全体のハーモニーを形作る共同作業。自分と他者の違いを認め、相手の音に耳を傾けながら合わせていく過程には、相手を尊重する姿勢、協力しあうコミュニケーション能力、自ら課題を見つけ取り組む主体性、その過程自体を楽しむ、すべてが詰まっています。これらは卒業後様々な分野へ進んでも必ず役立つ「生きる力」。楽団で培った仲間と創る喜びと音楽への情熱は、社会に出てからきっと大きな支えとなるはずです。



指揮者
ねもと ともかず
根本 知計

吹奏楽団 DATA

部員数：40人
活動日：月・木曜 18:00~21:00
土曜 10:00~13:00

2023年度 活動報告

○県大会金賞（課：ポロネーズとアリア/自：歌劇「フェドーラ」より）

2024年度 活動報告

○県大会銅賞（課：メルヘン/自：ミュージカル「レ・ミゼラブル」より）



活躍中の部活動をピックアップ!

今回は常磐大学の吹奏楽団と常磐大学高等学校の女子ソフトボール部です。

常磐大学高等学校

女子 ソフトボール部

大好きなソフトボールに
打ち込める環境が
ここにある!

過去に3年連続インターハイに出場。県大会優勝10回、関東大会や東日本大会にもコンスタントに出場する強豪部。今年5月に開催された関東高等学校ソフトボール大会茨城県予選会で優勝。3年連続となる関東大会への出場を決めた。それでもインターハイ出場は2024年から叶っていない。3年生が引退し、新チームとなった今、部員たちが一丸となり、新たに見据えているのはインターハイへの出場だ。

目指すはインターハイ出場!課題に向き合い、 個々の特長を活かしながらチーム一丸となる。

インターハイの出場を目指し、必死に練習を重ねてきましたが、決勝戦で悔し涙を流しました。関東大会の予選で県の頂点に立ち、油断したつもりはなかったのですが、まだまだ力が足りなかったと実感しました。こんな悔しい思いは私たちだけで良い。だからこそ、後輩たちには目標を達成してほしい。そう思ってアドバイスを送っています。ソフトボールを存分にできる環境だからこそ、主体的に考え十分にレベルを上げてほしいと考えています。



みやもと しおな
宮本 汐南 (2年)



小学校では軟式野球、中学校でソフトボールを始め、高校でもよりレベルを上げたいと常磐大学高等学校に入学しました。先輩たちはレベルも高く、いつも背中を追いかけているばかりでしたが、今後は自分たちがしっかりしていかなければなりません。常に優しく支えとなって導いてくれた先輩方、また自分たちの活動を後押ししてくれる専用球場をはじめとする活動環境、支えとなってくれる先生方や保護者。これだけの環境に恵まれて活動ができています。感謝の気持ちを忘れず、思い切ったプレーができるよう練習に励んでいきたいです。技術面の向上だけでなく、精神面でも物事との向き合い方・考え方など、様々な面から成長し、先輩たちの思いも含めて目標を実現したいです。



将来に生きる経験や考え方が身につく部

経験者が多いこともありますが、生徒自身で目標を設定、その達成に向け個々が自分の技術イメージを作り体現できるように努力を重ねています。実際、試合のたびに、生徒たちは一つのプレーを振り返り、課題を克服するための練習メニューを決めていきます。私は顧問兼指導者であるため、彼女たちをサポートする立場です。あくまで生徒たちが主体であり、その勝利に向ける執念と意欲を形にできるよう努めています。特に彼女たちの向上心に応えるために情報収集を重視しています。より良い理論や方法は積極的に取り入れて練習に活かしています。ノックのやり方は顧問就任時よりも大きく変化しました。また日常生活のあり方や時間の使い方などの助言も含め、充実した高校生活への支えになればと考えています。これからも信念をもって取り組んでいきたいです。



いり え あきひさ
顧問 入江 祥久



前主将
かざみ ななほ
風見 七葉 (3年)



女子ソフトボール部 DATA

部員数: 29人 (1年9人 2年9人 3年11人)
活動日: 週6日 (月曜日はオフ)

2024年度 活動報告

- 関東高等学校ソフトボール大会出場
- 全国高等学校総合体育大会茨城県予選会準優勝
- 国民スポーツ大会関東ブロック大会出場 (部員3人)
- 関東私立高等学校女子ソフトボール選抜大会出場
- 東日本高等学校女子ソフトボール大会 2部優勝

2025年度 活動報告

- 関東高等学校ソフトボール大会出場
- 全国高等学校総合体育大会茨城県予選会準優勝
- 国民スポーツ大会関東ブロック大会出場 (部員3人)



Tokiwa Information



常磐の魅力がYouTubeでご覧いただけます。
トボス メイキング動画「TOPOS MOVIE」を配信中!



CLUB MAKING
(大学・短期大学)



CLUB MAKING
(高校)



学校法人常磐大学 CM動画



6月の駅構内動画広告
(水戸・石岡・土浦・勝田)

YouTubeショート動画で
ご覧いただけます。



寄付者ご芳名 (敬称略・五十音順) ご厚情に深く感謝し、以下のとおりご報告いたします。[2025年1月～6月受付分]

諸澤幸雄奨学金制度への募金

学校法人内の各学校に在籍する学生・生徒で、
経済的理由により学業の継続が困難な者に対し
て奨学金を給付し公平な修学機会を与え、もっ
て有為な人材の育成に資することを目的とした
給付型奨学金制度です。

個 人	
120,000円	齊藤 泰嘉*
芳名のみ公表	安藤 昌俊*
	江原 麻子*
	小宅 祐輔*
	関 いづみ*
	根本 知計*
	渡辺 凧沙*

常磐大学高等学校 創立100周年募金

常磐大学高等学校の教育活動ならびに学習支援
をさらに拡充させ、生徒の伸びやかな成長を図
るための環境整備事業推進募金です。

団 体	
芳名のみ公表	かりん水戸支部
個 人	
60,000円	大槻 行徳*
芳名のみ公表	岩間 健一郎*
	内田 和毅*
	江原 昌義*
	川崎 秀典*
	横山 正和*

教育および学術研究の 充実・発展のための募金

法 人	
3,000,000円	株式会社 システムディ

福祉職を志す学生への支援

法 人	
3,200,000円	一般財団法人 安寿苑 (2025年度事業分)

動物心理学研究棟の教育研究環境 整備に対する支援

個 人	
芳名のみ公表	伊東 昌子
	中原 史生

●受付期間中に複数回お申し込みくださいました方は、芳名に*を付しています。

税制上の優遇措置

寄付募集について、文部科学省から特定公益増進法人の証明書交付を受けて
おります。本学にご寄付いただきました場合は、税制上の優遇措置を受けるこ
とができます。

寄付募集の詳細については、ホームページでご覧いただけます。

<https://www.tokiwa.ac.jp/fund/>

寄付金のお申し込みおよびお問い合わせ

学校法人常磐大学 会計経理課 寄付係

[お電話で] 029-232-2551 [メールで] kifu@tokiwa.ac.jp

TOPOS vol.100 September 2025

学校法人常磐大学 広報誌【トボス】 2025年9月発行

学校法人常磐大学 総務課広報係

〒310-8585 茨城県水戸市見和1丁目430-1 TEL.029-232-2511(代)

皆様からの
ご意見大募集!

①印象に残った記事とその理由など ②今後、広報誌で取り上げてほしいテーマなど

皆様からのご意見・感想をメールまたははがきでお寄せください。

※名前、住所、本学との関係(在籍者の場合、所属する学校名)も併せてご記載ください。

[メール送信先] kikaku@tokiwa.ac.jp

[はがき郵送先] 〒310-8585 茨城県水戸市見和1丁目430-1 学校法人常磐大学 総務課広報係

お寄せいただいた方の中
から、抽選で20名様に
常磐大学オリジナルグッズ
を差し上げます。



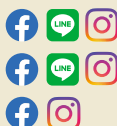
TOKIWA

<https://www.tokiwa.ac.jp/>

常磐大学大学院
常磐大学
常磐短期大学



常磐大学高等学校
智学館中等教育学校
常磐大学こども園



常磐大学は、令和5年度
(一財)大学・短期大学
基準協会による大学認証
評価の結果、適格と認定
されました。



常磐短期大学は令和2年
度(一財)大学・短期大
学基準協会による認証評
価の結果、適格と認定さ
れました。